

【確定版】



令和7年度 江戸川区立篠崎中学校 学校経営計画



令和8年度から設置されるコミュニティ・スクールの中核をなす学校運営協議会
(令和6年10月2日)

令和7年4月1日
江戸川区立篠崎中学校
校長 紅林 兼一

令和7年度

江戸川区立篠崎中学校 学校経営計画

もくじ

もくじ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
1	【中期目標】令和6年度 教育指導課重点事業 概要	P 3
2	本校の現状	P 4
3	教育目標	P 4
4	スローガン	P 4
5	目指す学校像	P 4
6	RPDCAサイクルに基づいた教育計画の流れ	P 4
7	【令和6年度学校経営計画】基本方針と具体的方策	P 5
	全体共通 ～通常学級～	P 8
	基本方針（1）篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた 学力向上	P 9
	基本方針（2）学習指導要領に対応した教員の指導力向上	P 9
	基本方針（3）豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	P 10
	基本方針（4）自己と他者を大切にし、多様性を認め合える 人権尊重意識の涵養	P 11
	基本方針（5）生徒理解に基づいた支援の充実	P 12
	基本方針（6）「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた 不登校支援の充実	P 13
	基本方針（7）共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	P 14
	基本方針（8）CS 運営マニュアルに基づいた CS モデル校運営 充実	P 15
	基本方針（9）学校情報の積極的な配信	P 16
	基本方針（10）教員の生徒と向き合う時間の確保	P 17
	基本方針（11）より良い学校設備の整備・充実	P 18
	基本方針（12）食育の推進	P 18

特別支援学級 ～8組～		P 20
基本方針（1）篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた 学力向上		P 21
基本方針（2）学習指導要領に対応した教員の指導力向上		P 21
基本方針（3）豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実		P 22
基本方針（5）生徒理解に基づいた支援の充実		P 22
基本方針（7）共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進		P 23
チャレンジクラス ～9組～		P 24
基本方針（1）篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた 学力向上		P 25
基本方針（2）学習指導要領に対応した教員の指導力向上		P 25
基本方針（3）豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実		P 26
基本方針（5）生徒理解に基づいた支援の充実		P 27
基本方針（6）「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた 不登校支援の充実		P 28
基本方針（7）共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進		P 28
基本方針（8）CS 運営マニュアルに基づいた CS モデル校運営 充実		P 29

1 【中・長期目標】教育指導課重点事業 概要

「令和7年度 教育課程編成に向けて（江戸川区教育委員会 教育指導課・教育研究所）」

＜江戸川区教育大綱＞

- 人とともに生きる：自分らしく学べる教育の実践
- 社会とともに生きる：支え合う力を強みにするしくみづくり
- 経済とともに生きる：学びを生かして挑戦できる土台づくり
- 環境とともに生きる：生きる力を育むための環境づくり
- 未来とともに生きる：未来を切り拓く力を養う教育の実践

＜江戸川区の教育目標＞

- こころ豊かに たくましく 教育の江戸川
- 自他を尊重し、人間性豊かで道徳心のある人
 - 自ら学び実践し、共に教え合い、育ち合う、創造力と協調性豊かな人
 - 将来の夢をもち、個性豊かに、持てる力を発揮して、進んで社会に貢献できる人

＜江戸川区の基本方針＞

- 基本方針1：共生社会の実現と人権尊重の精神の育成
- 基本方針2：学校教育の充実
- 基本方針3：学びを支える教育環境の整備
- 基本方針4：健全育成活動の推進
- 基本方針5：文化遺産の伝承

- 教員の授業力向上
- 学力の向上
- 学習習慣の確立
- 体力の向上
- 読書科の推進
- 食育・健康教育・安全教育
- 教員の育成、活躍の場の設定

- 不登校や発達支援等の課題を抱える子ども支援
- 特別支援教育の充実
- 児童・生徒の多様な居場所づくり
- いじめの早期発見・早期対応

- 教育環境の中・長期的な整備及び在り方検討の開始
- 社会的自立に必要な力の育成
- 地域に開かれた学校（園）の実現
- 区独自の学習・体験活動
- 学校を支える様々な人材

2 本校の現状（令和6年度学校評価および令和6年度校長所見）

（1）成果

- ① 読書科指導指針については、かなりの成果が上がってきている。
- ② 生徒会予算を投じた、より主体的な生徒会活動については教員から好評である。
- ③ 学びのユニバーサルデザインを取り入れた授業改善については増補版を完成させた。
- ④ CS の開設については準備が整ってきている。
- ⑤ 働き方改革については、ゆっくりではあるが着実に成果が出てきている。
- ⑥ 学校財産については、かなりの成果が上がっている。
- ⑦ 昨年度開設したチャレンジクラスについては、概ね良好な状況でスタートがきれた。

（2）課題

- ① 不登校については、全く成果が表れていない。
- ② 自己肯定感を高める取組については今後大きな仕掛けが必要である。
- ③ 教員の特別支援学級での出前授業については、再度丁寧に推進する必要がある。
- ④ 学力向上については焦点を絞ったの教員への意識付けが必要である。
- ⑤ 国際交流については、交流先を見付けることが課題になっている。
- ⑥ フィットネスエリアの活用については大きな課題である。

3 教育目標

- ・よく学び、深く考える生徒
- ・思いやりと規範意識のある生徒
- ・すすんで体を鍛える生徒
- ・社会に貢献する生徒

4 スローガン

「街のハブになる！」

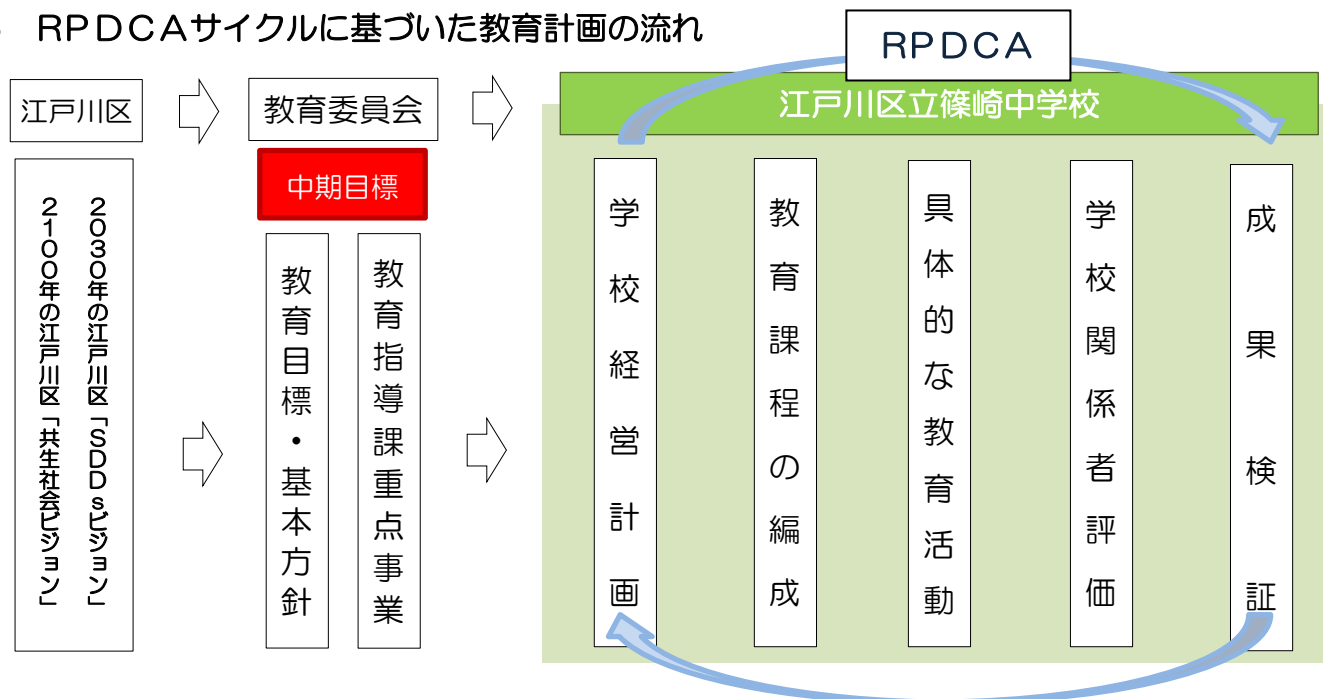
5 目指す学校像

上記、学校目標を達成するための

《目指す教師像》 生徒のやる気に火を付けられる教師

《目指す子供像》 主体的に考え、行動できる生徒

6 RPDCAサイクルに基づいた教育計画の流れ



7 【令和7年度学校経営計画】基本方針と具体的方策

	中期	基本方針	具体的方策 (赤字は数値目標のある方策)	ページ
全体共通 (通常学級)	学力向上	(1) 篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上	① EDOスク、EDO学舎、EDO塾など、家庭と連携した学習習慣の定着	P9
		(2) 学習指導要領に対応した教員の指導力向上	① 反転学習を導入した課題解決型学習に関わる授業研究を計画的に実施 ② 調べる学習コンクールへの出品を軸にした、読書科の充実	P9 P9
	体力向上	(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	① 本校の課題を意識した保健体育科の授業における補助運動の充実	P10
			② 「フィットネスエリア」を活用した個に応じたトレーニングの各部活動等での活用推進	P10
	健全育成	(4) 自己と他者を大切に、多様性を認め合える人権尊重意識の涵養	① 道徳地区公開講座を充実しての学校と家庭の連携を図った道徳教育の充実	P11
			② 職員の人権尊重教育に係わる研修の充実(フィールドワーク等)	P11
		(5) 生徒理解に基づいた支援の充実	① 生徒会予算を投じた、より主体的な生徒会活動の活性化 ② 「いいとこ見つけ週間」を設定しての生徒同士の称賛を与える機会を設定した自己肯定感の涵養	P12 P12
		(6) 「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実	① ほっとルーム及びチャレンジクラスを活用した支援の充実 ② 不登校・不登校傾向の生徒の部活動や地域活動への参加を促進	P13 P13
	共生社会	(7) 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	① 日常的な交流及び共同学習の機会を設定した、交流及び共同学習の更なる充実	P14
			② 全教員による年間1回以上の特別支援学級における出前授業の実施	P14
			③ 「学びのユニバーサルデザイン」を取り入れた授業の工夫改善	P14
	開かれた学校	(8) CS運営マニュアルに基づいたCSモデル校の運営充実	① 地域の方を部活動に招いた「篠中サークル」など、地域学校協働本部を活性化させた多様な活動の推進	P15
② 1人1ボランティア運動の推奨(地域祭り、夏ボラ等)			P15	
その他	(9) 学校情報の積極的な配信	① 「篠中ちゃんねる」(動画配信)の充実	P16	
		(10) 教員の生徒と向き合う時間の確保	① 篠崎中学校「働き方改革推進計画」に基づいた働き方改革の進捗管理	P17
その他	(11) より良い学校設備の整備・充実	① 学校のデッドスペースを活用した、教育スペースの確保・有効活用	P18	
		(12) 食育の推進	① 家庭科と栄養士の連携を図った生徒の考えた「優秀献立」の充実	P18
特別支援学級 (8組)	学力向上	(1) 篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上	① 学年の枠を超えた3クラス2~3展開の習熟度別学習の実施	P21
		(2) 学習指導要領に対応した教員の指導力向上	② 各教科等の目的や自立活動、作業学習等の目標を意識した適正な教育課程の編成	P21
	健全育成	(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	① 朝のトレーニング週間を設定しての体力の向上	P22
			(5) 生徒理解に基づいた支援の充実	① 野菜や雑巾販売、喫茶店などPTAと連携した作業学習の充実
共生社会	(7) 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	① 日常的な交流及び共同学習の機会を設定した、交流及び共同学習の更なる充実	P23	
		② 全ての通常学級担当教員による年間1回以上の出前授業の受け入れ体制の構築	P23	
チャレンジクラス (9組)	学力向上	(1) 「チャレンジクラス運営マニュアル」に基づいた学力向上	① 学年の枠を超えた3クラス6展開の習熟度別自由進度学習の研究	P25
			② 音楽科、美術科、技術科、家庭科における、選時程に弾力性をもたせた指導の実施	P25
			③ 定期考査を廃止し、評価によらない評価の実施、個の学習進度に応じた実力テストを実施	P25
	体力向上	(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	① 理科・社会科における、自己の課題の解決に向けた調べる学習と定期的な発表会をの実施	P25
			(5) 生徒理解に基づいた支援の充実	① 専門家等と連携した自律神経を整える運動、通称名「リラックス」の実施 ② 標準服や体育着の着用を求めないなど、生徒の実態に応じた「きまり」の抜本的な見直し ③ 登校後の朝の時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施
	健全育成	(6) 「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実	① 登校コースに併せて、双方向型オンライン授業による指導体制の構築	P28
			② 従来の教室環境を一掃し、生徒がより主体的に学べる教室環境の整備・充実	P28
			③ 「ほっとルーム」をブレイク(準備学級)と位置付け、学習意欲の向上等、入級準備	P28
			④ 年間を通じた農業体験やセカンドスクール等、平素と異なる生活環境での体験的な学習を実施	P28
	共生社会	(7) 共生社会の実現に向けた教育の推進	① 特別支援学級との交流給食の実施	P29
開かれた学校	(8) CS運営マニュアルに基づいたCSモデル校の運営充実	① 地域と連携した「ウェルカムフラワー運動」を委員会活動として実施した帰属意識の涵養	P29	
		② 生徒の部活動や地域活動への参加を促進	P29	

<【中期目標】教育指導課重点や基本方針と具体的方策の見方>

「右上段」は、【中期目標】教育指導課重点
 「下段」は、本校の教育目標を達成するための令和6年度基本方針

【中期目標 1】学力の向上

基本方針（1）：篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上

具体的方策

① EDO スク、EDO 学舎、EDO 塾の活用による定着をする。

数値目標

国学力調査国語・数学の平均正答率が、都の平均値以上

R6

国語：本校 54.0%	都 60.6%	国 58.0%
数学：本校 55.0%	都 56.8%	国 52.5%
英語：本校 51.0%	都 52.0%	国 45.6% (R5 年度)

取組イメージ

EDO スクの活用推進

- 希望した生徒が、民間会社から派遣された講師の指導を受け、数学（算数）・英語の基礎・基本の定着を図る。

EDO 学舎の活用推進


- 地域学習ひろば「EDO 学舎」（本校は南篠崎共育プラザ）を使用しての学習教室

EDO 塾の活用推進

- 難関高等学校等への進学を目指す生徒への無料学習塾（注）所得審査及び入塾テストによる選考あり

篠崎中学校「学力向上推進計画」

江戸川区学力調査の分析を徹底し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ態度」に関する指導ポイントを周知徹底



【中期目標 1】学力の向上

基本方針（2）：学習指導要領に対応した教員の指導力向上

具体的方策

① 反転学習を導入した課題解決型学習に関わる授業の計画的に実施
 ※数値目標については、基本方針（1）と同様

② 調べる学習コンクールへの出品を軸にした、読書科指導に基づいた「読書科」の充実をする。

「取組イメージ」は、取組概要を分かり易く図等を使い説明したもの





全体共通
通常学級

基本方針（1）：篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上

具体的方策

- ① EDO スク、EDO 学舎、EDO 塾など、家庭と連携した学習習慣の定着をする。

数値目標

国学力調査国語・数学の平均正答率が、都の平均値以上

R6

国語：本校 54.0% 都 60.6% 国 58.0%

数学：本校 55.0% 都 56.8% 国 52.5%

英語：本校 51.0% 都 52.0% 国 45.6% (R5 年度)

取組イメージ

EDO スクの活用推進

- 希望した生徒が、民間会社から派遣された講師の指導を受け、数学（算数）・英語の基礎・基本の定着を図る学習の場



EDO 学舎の活用推進

- 地域学習ひろば「EDO 学舎」（本校は南篠崎共育プラザ）を使用しての学習教室

EDO 塾の活用推進

- 難関高等学校等への進学を目指す生徒への無料学習塾
- （注）所得審査及び入塾テストによる選考あり

篠崎中学校「学力向上推進計画」

江戸川区学力調査の分析を徹底し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ態度」に関する授業における指導ポイントを周知徹底

基本方針（2）：学習指導要領に対応した教員の指導力向上

具体的方策

- ① 反転学習を導入した課題解決型学習に関わる授業研究を計画的に実施し、事例集を作成する。

※数値目標については、基本方針（1）と同様

- ② 調べる学習コンクールへの出品を軸にした、読書科指導指針に基づいた「読書科」の充実をする。

図書館を使った調べる学習コンクール、区内受賞者 10 名以上

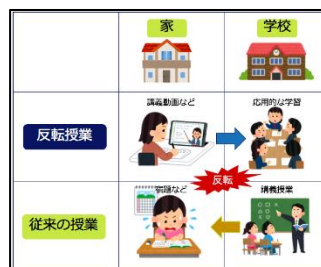
R6

⇒529 人が出品（内 区内銀賞5名）



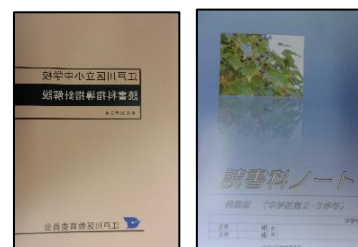
反転学習

授業前に動画教材などを活用して事前学習し、授業で意見交換をしたり学び合い・教え合いをしたりする授業形式



読書科

江戸川区が国の教育課程特例校の指定を受け、「読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力」を育成する特別の教科



【中期目標 2】体力の向上

基本方針（3）：豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実

具体的方策

- ① 本校の課題を意識した、保健体育科の授業における補助運動の充実をする。
- ② フィットネスエリアを活用した、個に応じたトレーニングの充実をする。

数値目標

「都体力調査」で、全学年が都の平均以上

R6

1年 男子：34.5 ○ 女子：41.1 ×

2年 男子：40.8 × 女子：46.7 ○

3年 男子：49.6 ○ 女子：51.4 ○

全体 264.2 ○

※○は都の平均以上

補助運動

各單元における技や技術と関連させた補助運動や部分練習等を意図的・計画的に実施
参考例一部

陸上・・・スクワット歩き・腕振り、サイドステップ、ハーキーステップ
器械運動・・・カエル、犬、ペンギン、蜘蛛等の歩き
水泳・・・腰掛けキック、イルカ跳び、20秒間泳
球技・・・片手パス（ショート、ロング）、ラダーステップ、カラーコーンダッシュ
ダンス・・・3ウェイ背筋、足上げ腹筋、ストレッチ
剣道・・・四股、仰向けでの首上げ、素振り
これらを例に一つの運動を正確に20～30秒程度全力で行う運動を数セット実施

「フィットネスエリア」

部活動との連携や放課後のトレーニング部等でトレーナーとともに、主体的に自己の筋力等を整えることができるスペースを設置。

※ あくまでも、中学生期に必要なトレーニングを中心とする



【中期目標3】子どもたちの健全育成等の強化

**基本方針（4）：自己と他者を大切にし、多様性を認め合える
人権尊重意識の涵養**

具体的方策

- ① 道徳地区公開講座を充実しての学校と家庭の連携を図った道徳教育の充実
- ② 職員の人権尊重教育に係わる研修の充実（フィールドワーク等）

保護者との連携を図った道徳の授業

保護者及び生徒をパネラーにした、学年や学級での道徳の授業を行い、生徒の道徳性を養う。



人権教育に係わる研修（フィールドワーク）参考例一部

東京都人権プラザ、国立療養所多磨全生園・国立ハンセン病資料館
お肉の情報館、観臓記念碑（小塚原回向院）、東京都立皮革技術センター東京江
戸東京博物館、アイヌ文化交流センター 等

【中期目標3】子どもたちの健全育成等の強化

基本方針（5）：生徒理解に基づいた支援の充実

具体的方策

- ① 生徒会予算を投じた、より主体的な生徒会活動の活性化を図る。
- ② 「いいところ見つけ週間」を設定しての生徒同士の称賛を与える機会を設定した自己肯定感の涵養

数値目標

hyper-QU^{※2}2回目において、学級生活不満足度群が全体の10%以下
R6→1年：17% 2年：17% 3年：10%



生徒会予算を投じての生徒会活動の活性化

概ね10万円程度（プラスPTA会からの援助）の予算を投じて、江戸川区子どもの権利条約に基づいた、子供たちによる、子供たちのための生徒会組織の活性化を図る。



いいところ見つけ

概ね2週間程度の「いいところ見つけ週間」を設定し、生徒同士で、クラスメイト等のいいところ見付けて、お互いに賞賛しあう機会を設定する。

※その他

- ・あなたを励ますプログラムの作成
生活指導は、生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とした年間プログラムについて、若手教員を中心とした委員会で作成する。
- ・「達人ちゃん表彰」の実施
自薦。多選問わず、人より長けていることを表彰する。例：黒板の板書を消すのが得意、野球部の声出しが得意、サッカーのリフティングだけは得意など。

注釈

※2 hyper-QUとは、学校生活における生徒の満足度や意欲、学級集団の状態等を質問紙によって測定するもの

基本方針（6）：「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実

具体的方策

- ① ほっとルーム（校内別室）及びチャレンジクラス（教員を配置した校内別室学級）を活用したきめの細かい支援の充実をする。
- ② 不登校・不登校傾向の生徒の部活動や地域活動への参加を促進

数値目標

不登校もしくは長期欠席者のうち、外部専門機関につながない生徒0人
R6 → 2人



取組イメージ

ほっとルーム

不登校・不登校傾向の生徒に対して、以下を目的として、登校を促し、教室復帰や他機関につなげることを目的とする。

- ・継続的な登校を支援することで、一人一人の生徒の悩みや不安などの原因を把握
- ・学校・学級に対する所属感や安心感を維持させる。
- ・登校することにより、生活習慣の安定を図る。

チャレンジクラス（9組）

生徒が、安心して学校生活を送ることができるようなゆとりのある生活時程を実現し、学習保証、心理的な支援を行うクラス。

登校コース：各学年10名程度

オンラインコース：各学年5名程度



基本方針（7）：共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進

具体的方策

- ① 日常的な交流及び共同学習の機会を設定し、交流及び共同学習の更なる充実をする。
- ② 全教員による年間1回以上の特別支援学級における出前授業を行う。
- ③ 「学びのユニバーサルデザイン」を取り入れた授業の工夫改善をする。

数値目標

- 全教員でユニバーサルデザインを活用した授業等の工夫事例集を増補
- 全通常学級担当教員による出前授業の実施



取組イメージ

交流及び共同学習（一部参考例）

- （仮称）副籍学級を指定し、給食や行事、部活動等で、日常的に交流
- 音楽、美術、保健体育、技術、家庭の実技教科を中心に、本人及び保護者の希望に応じて、共同学習を実施



全教員による特別支援学級における出前授業の実施

教員の資質向上を目的として、全ての教員が、特別支援学級において、年間最低1回以上の出前授業を行い、「わかる授業」の手がかりとする。

「学びのユニバーサルデザイン」＜ガイドライン＞

原則Ⅰ 提示（理解）のための多様な方法を提供する

ガイドライン1 知覚するための多様なオプションを提供する

ガイドライン2 言語、数式、記号のためのオプションを提供する

ガイドライン3 理解のためのオプションを提供する

原則Ⅱ 行動と表出のための多様な方法を提供する

ガイドライン4 身体動作のためのオプションを提供する

ガイドライン5 表出やコミュニケーションに関するオプションを提供する

ガイドライン6 実行機能のためのオプションを提供する

原則Ⅲ 取組のための多様な方法を提供する

ガイドライン7 興味を引くために多様なオプションを提供する

ガイドライン8 努力やがんばりを継続させるためのオプションを提供する

ガイドライン9 自己調整のためのオプションを提供する

<「学びのユニバーサルデザイン」一部参考例>

<p>様々な発表方法を提供する</p> <p>1 支援・配慮 支援のレベルを段階的に調節して流暢性を伸ばす。</p> <p>2 説明 発表の際に、全員一緒に画一的な発表形式とするのではなく、創作物やスライド、場合によっては、身体表現や寸劇など多様な発表形式を提示し、自分で選択させる。このような取組を段階的に進めて、教師が求める学習内容に少しずつ近づかせる。</p> 	<p>個人に合わせた、学習内容と方法を提供する</p> <p>1 支援・配慮 個人の選択や自主性を尊重にする。</p> <p>2 説明 それぞれに異なる生徒の習熟度に合わせて、難易度の異なる授業プリントを用意し、生徒に毎時間「わかった」「できた」という達成感を与える。また、授業への取り組みを、生徒によって異なる方法を提供する。例えば、学習の定着に時間がかかり、他の生徒と違う範囲を勉強している生徒であれば、他の目が気にならないよう、別室での受講を認める。他にも、学習意欲が落ちる生徒には、タブレットによる打ち込みでなら取り組める生徒には、タブレットで取り組める問題集に並に取り組ませるなどする。</p> 	<p>生徒自身が見づらい図や表をタブレットで大きく投影する</p> <p>1 支援・配慮 情報の表し方をカスタマイズする多様な方法を提供する。</p> <p>2 説明 教科書やプリントでは、生徒に提供できる図や表の大きさに限りがあります。仮にプリントに小さい図や表を印刷すると、その他の情報を、他のプリントやスペースに印刷することになり、処理すべき情報が増えてしまいます。そこで、小さい図や表を生徒自身がタブレットを使って、大きく投影することで、生徒の理解がより容易になります。</p> 
--	---	--

【中期目標5】地域に開かれた学校の実現

基本方針（8）：CSマニュアルに基づいたCSモデル校の運営充実

具体的方策

- ① 地域の方々を部活動に招いた「篠中サークル」など、地域学校支援本部を活性化させた多様な部活動を推進する。
- ② 一人一ボランティア（外部ボランティア）を推奨する。

数値目標

○篠中サークル設置部活3部活

R6 ⇒ 0部活

○年間1回以上、生徒の半数以上が地域等のボランティアに参加

R6 ⇒ 24%が参加

取組イメージ

篠中サークル

既存の部活動で、地域の方々が入部しても良い部活動を募り、地域の方々と生徒と一緒にスポーツ・文化的活動を楽しむ機会を設定する。



地域のボランティア

校内ボランティアや地域祭り等において、中学生が地域を担う人材の一人としてボランティアを実施。



基本方針（9）：学校情報の積極的な配信

具体的方策

- ① 篠中ちゃんねるの充実

数値目標

年間10本以上の動画の配信

取組イメージ

篠中チャンネル

学校情報について、全校朝礼を中心に配信。次年度は、テーマを絞った番組を作り保護者と教育に関わる情報を共有できるようにする。



基本方針（10）：教員の生徒と向き合う時間の確保

具体的方策

- ① 篠崎中学校「働き方改革推進計画」に基づいた働き方改革の進捗管理を丁寧に行う。



数値目標

超過勤務時間、月 45 時間以内年間 6 か月以上が全体の 7 割
R6→概ね 9 割が 60 時間以内



働き方推進計画（概要）

- 1 管理職による取り組みの徹底
 - (1) 管理職の確固たる決意の発信
 - (2) 江戸川区立篠崎中学校における「働き方改革推進計画」の策定
 - (3) 「学校経営支援部」の設置による、学校業務の適正化、効率化
 - (4) 学年会計事務の分掌見直し（篠中モデルの確立）
 - (5) 学校校務分掌の平準化
 - (6) 教職員の在校時間縮減に向けた取り組み強化
 - (7) 担当業務における引き継ぎ書の作成
 - (8) 「部活動の活動指針」の策定及び実施
- 2 校内校務改善委員会による取り組みの提案・推進
 - (1) 会議の縮減、効率化
 - (2) 学校行事の見直し・修正
 - (3) 担任業務の平準化・簡素化
 - (4) 学校を介さない行事写真や教材等の集金システムの推進
 - (5) 定期考査の採点ソフトや業者テストの活用
 - (6) 清掃指導の精選
 - (7) 学校設備管理
 - (8) 保護者会・三者面談
- 3 教職員一人一人の意識改革に向けた取組の推進
 - (1) 職員室および机上の整理・整頓
 - (2) スクールサポートスタッフの効果的な活用
 - (3) 連絡掲示板の効果的な活用

基本方針（11）：より良い学校設備の整備・充実

具体的方策

- ① 学校のデッドスペースを活用した、教育スペースの確保・有効活用



整理・整頓の手順

○今後の流れ

学校のデッドスペースの洗い出し

→整理・整頓すべき財産の洗い出し

→整理・整頓に係わる原案（含む予算案）

→原案を達成するためのスケジュール案周知

→整理・整頓

→継続してのチェック・確認

基本方針（12）：食育の推進

具体的方策

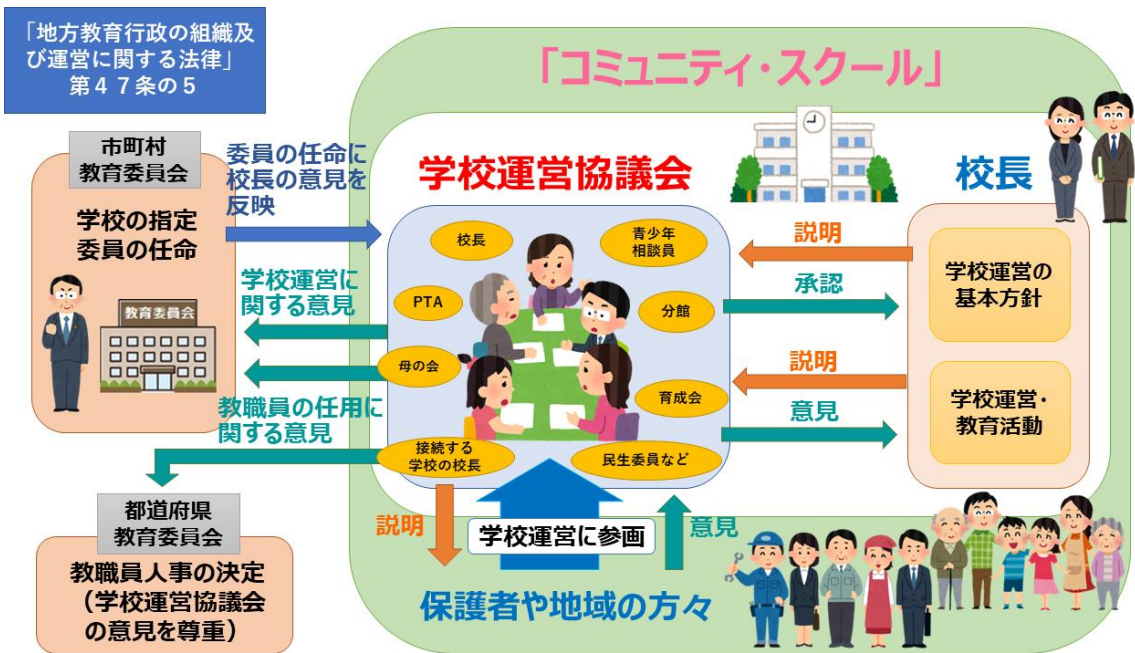
- ① 家庭科と栄養士の連携を図った生徒の考えた「優秀献立」の充実する。

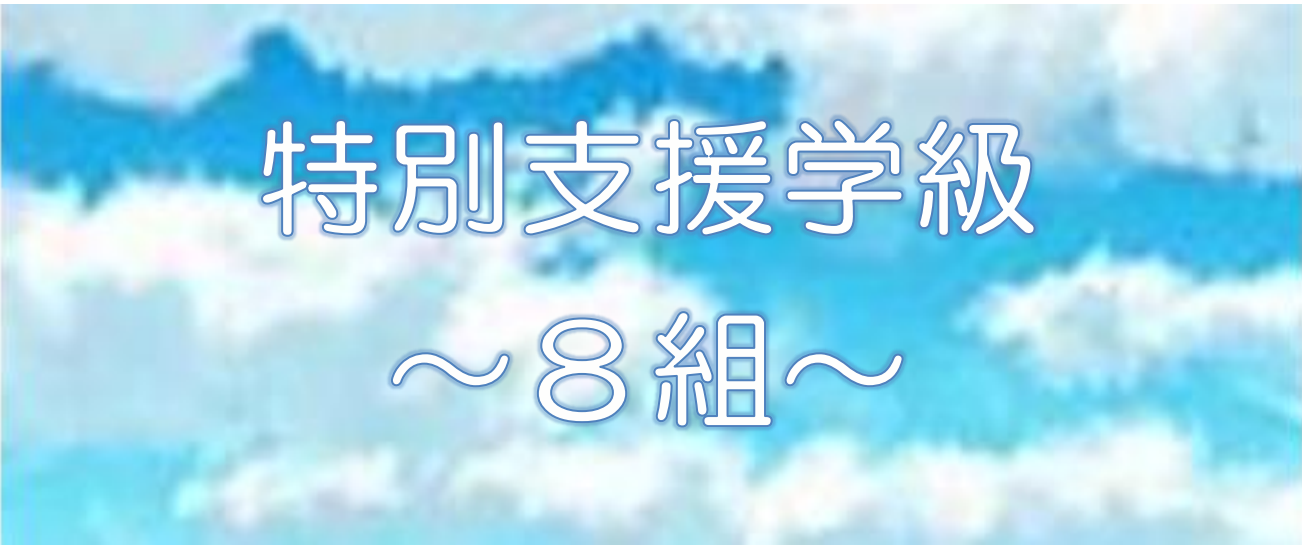


優秀献立例

焼きそばパン







特別支援学級

～ 8組～

※全体共通 通常学級と併せて、特別支援学級（8組）のみに対応した
経営方針（計画）を記載

基本方針（1）：篠崎中学校「学力向上推進計画」に基づいた学力向上

具体的方策

- ① 国語科・数学科・英語科（外国語科）において、学年の枠を超えた3クラス2～3展開の習熟度別学習を実施する。

取組イメージ 

習熟度別学習

特別支援学級においては、通常の一斉指導を行うとともに、個別進度学習にも力点を置き、個に応じた学力向上を目指す。

基本方針（2）：学習指導要領に対応した教員の指導力向上

具体的方策

- ① 各教科等の目的や自立活動、作業学習等の目標を意識した適正な教育課程の編成をする。

数値目標

教育課程に基づいた関連資料（各教科の年間計画）の見直し、改善。

取組イメージ 

適正な教育課程の管理

「行事ありき」の年間計画を学習指導要領に準じた、より適正な年間計画に改善。



基本方針（3）：豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実

具体的方策

- ① 朝のトレーニング週間を設定しての体力の向上をする。

数値目標

1回は概ね1週間、学期に1回程度。



主なトレーニング例

- ・体幹トレーニング（ラダー、ストレッチ等）
- ・バドミントン等の軽い運動
- ・特別支援体育連盟主催大会（陸上、バスケットボール）
参加ための練習
- ・冬場の持久走
- ・リズム運動 等



基本方針（5）：生徒理解に基づいた支援の充実

具体的方策

- ① 野菜や雑巾販売、喫茶店などPTAと連携した作業学習を充実する。

数値目標

PTAと連携した作業学習を年間3回以上実施。



取組イメージ

PTAと連携した作業学習

PTA 予算から、作業学習に必要な教材費を投じて、物品の制作から販売までの一連の流れを作業学習の一環として実施する。



【中期目標 4】 共生社会の実現に向けた教育の推進

基本方針（7）：共生社会に向けた特別支援教育の推進

具体的方策

- ① 日常的な交流及び共同学習の機会を設定し、交流及び共同学習の更なる充実をする。
- ② 全ての通常学級担当教員による年間1回以上の出前授業の受け入れ体制を構築する。

数値目標

- 通常学級生徒の交流給食の受け入れ
- 出前授業の年間実施計画の作成



交流及び共同学習年間計画

実技教科だけでなく、給食指導や行事等、交流及び共同学習を年間を通して、意図的、計画的に実施できるようにするための年間計画。

出前授業年間実施計画

全ての通常学級担当教員が年間を通して、特別支援学級で出前授業を計画的に実施するために、学年や



単元等を整理した年間計画。



チャレンジクラス

～9組～

※全体共通 通常学級と併せて、チャレンジクラスのみに対応した
経営方針（計画）を記載

基本方針（1）：チャレンジクラス運営マニュアルに基づいた学力向上

具体的方策

- ① 国語科・数学科・英語科において、各教科担当教員を中心にチームティーチングを行い、学年の枠を超えた3クラス6展開の習熟度別自由進度学習の研究をする。
- ② 音楽科、美術科、技術科、家庭科については、各教科のねらいを維持させつつ、通称名「創造」とし、週時程に弾力性をもたせた指導を行う。
- ③ 定期考査を廃止するなど、評定によらない評価を行う一方で、個の学習進度に応じた実力テストを実施するなどして、学習の習熟の程度を確認する。

取組イメージ 

習熟度別自由進度学習

概ね、小学校低学年、中学年、高学年、中1、中2、中3の6段階に分けた習熟度の中で、個に応じた進度で、遡り学習ができるような学習環境を作り、抜けのない学習を推進する。

基本方針（2）：学習指導要領に対応した教員の指導力向上

具体的方策

- ① 理科・社会科においては、生徒の選択した学習問題を設定し、自己の課題の解決に向けた調べる学習を実施し、定期的な学習発表会を実施する。

取組イメージ 

参考授業例

社会科の歴史分野の江戸時代について、Aさんは、その時代の身分制度、Bさんは、文化、Cさんは、中心人物など、単元に応じたテーマを設定し、調べ、発表を行う。



基本方針（3）：豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実

具体的方策

- ① 保健体育科「体づくり運動（体ほぐしの運動）」において、専門家等と連携した自律神経を整える運動、通称名「リラックス」の授業を実施する。



リラックス

保健体育科「体づくり運動（体ほぐしの運動）」の一部で行う授業の通称名



基本方針（5）：生徒理解に基づいた支援の充実

具体的方策

- ① 制服や体育着の着用を求めないなど、生徒の実態に応じた「きまり」の抜本的な見直しをする。
- ② 睡眠や食欲、腹痛、頭痛など、日々の記録を綴ることができる連絡帳「(仮称) マイライフ」を作成し、生徒一人一人の状況を把握した支援をする。
- ③ 登校後の朝の時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を実施する。

取組イメージ

マイライフ

明日の持ち物だけでなく、前日の睡眠・食事等の状況のほか、当日の気分等についても記録を残せるような本校独自の生活手帳を準備し、記載させる。

ソーシャルスキルトレーニング

市販教材のロールプレイやゲームなどを通して、対人関係などのスキルを学ぶ時間を毎朝短時間行うようにする。

<例>

- きっかけ言葉を上手に使う。
- ついついしちゃうこと。
- 嫌な子がそばにきたら。
- 折り合いをつけよう。



基本方針（6）：「未来を担う子供たちの自立に向けて」 に準じた不登校支援の充実

具体的方策

- ① 登校コースに併せて、双方型オンライン授業による指導体制の構築
- ② 従来の教室環境を一掃し、生徒がより主体的に学べる教室環境の整備・充実をする。
- ③ 「ほっとルーム」をプレ学級（準備学級）と位置付け、学習意欲の向上等、入級準備をする。
- ④ 年間を通じた農業体験やセカンドスクール等、平素と異なる生活環境での体験的な学習を実施する。

数値目標

- 全生徒が、入級後、全体の出席すべき日数の内、85%出席



従来の教室環境を一掃した教室環境

従来の椅子や机を一新し、個別最適化に適した学習環境を整える。

平素と異なる生活環境での体験活動（参考例）

農業体験、都内ウォークラリー、ボーリング教室、都内宿泊を用いての学校生活。

基本方針（7）：共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進

具体的方策

- ① 特別支援学級との交流給食を実施する。

数値目標

- 1回1週間程度を目途に、年間3回実施。

基本方針（8）：CSマニュアルに基づいたCSモデル校の運営充実

具体的方策

- ① 地域と連携した「ウェルカムフラワー運動」を委員会活動として実施した帰属意の涵養を図る。
- ② 生徒の部活動や地域活動への参加を促進する。

数値目標

○本校部活動、もしくは、地域のボランティアサークルに年間を通して参加する生徒の割合が2割以上。

R6 →25%参加

取組イメージ 

平素と異なる生活環境での体験活動（参考例）

- ・ポニーランドにおける馬の世話
- ・高齢者施設での介護
- ・水辺の環境整備 など



